

今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 横田 浩

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 進藤 秀夫

■[編集後記](#)

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 横田 浩

皆様、明けましておめでとうございます。本日は新年のご多用中にも関わりませず、ご来賓の経済産業省大臣官房審議官 上田洋二様を始め関係官庁様、関連企業様、関係団体様、報道関係様、そして日頃からお世話になっております多数の方々にご臨席を賜り、誠に有難うございます。令和初めての新年に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、世界では、長引く米中貿易摩擦、英国の EU 離脱、緊迫感を増す中東情勢など、解決の糸口が見えない問題が相次ぎました。また、気候変動や海洋プラスチック問題は、危機感を持って語られる機会がますます増え、G7 や G20 でも重要な議題として取り上げられました。16 歳の少女が国連気候行動サミットのスピーチで全世界に強烈な印象を与えたことは記憶に新しいところです。

国内では、昨年 5 月に新しい元号、令和の時代が幕開けとなりました。消費税増税による景気の振れは過去の増税時に比べて小幅に留まったようですが、設備投資や住宅投資は力強さに欠け、経済界としてはやや盛り上がり欠けた一年だったように思われます。

一方で、ラグビーワールドカップでの日本代表の活躍や、旭化成の吉野さんのノーベル化学賞受賞に勇気づけられた方も多いと思います。新年は、東京オリンピックなどの明るいニュースと共に、各種の経済対策が効果を発揮し、さらにはアジア諸国の旺盛なインフラ需要の継続、国家間の緊張関係緩和などによって、安定した経済成長につながることを期待したいものです。

さて、塩ビ業界に目を向けますと、昨年の内需は一昨年との比較で概ね横ばいであった一方、新興国需要をベースとした輸出は好調に推移し、おかげ様で生産量は一昨年同様 160 万トンを超えそうであり、塩ビ樹脂各社ともほぼフル稼働を維持、本年もこの状況が続くものと予想しております。内需が伸び悩んでいるとはいえ、塩ビ樹脂は、自然災害からの



VEC横田会長

賀詞交歓会でご挨拶頂いた
経済産業省 上田審議官

復旧・復興あるいは防止に役立つ社会的インフラ整備に用いられますし、デジタル社会の成長に欠かせない半導体製造設備における平板需要などもございますので、新年後半には需要の底入れ・伸長に向かうのではないかと期待しております。

以上のような背景のもと、当協会が注力してまいりました活動の内容と本年の方針について少しお話をさせていただきます。



VEC賀詞交歓会の様子

まずは海洋プラスチック問題を始めとするプラスチックへの厳しい風に鑑み、塩ビ業界においても、国内での各種リサイクル推進が強く望まれるところです。

このため当協会は昨年、東京大学清家先生を委員長に、樹脂窓に係わる団体様・メーカー各社様と共同で「樹脂窓リサイクル検討委員会」を立ち上げました。塩ビ製樹脂窓は優れた断熱性能を有し、特に北海道では30年以上前から普及が進んでおりますが、今後廃棄物の問題が顕在化すると予想されております。これが樹脂窓普及の足かせとならないよう、樹脂窓リサイクルの先進国であるドイツなどを参考にしながら、本年はわが国でのリサイクルシステムの構築のための課題を洗い出し、ロードマップ化してまいります。

樹脂窓は、戸建て住宅では複合窓を含めた普及率が既に80%を超えておりますが、今後もネットゼロエネルギー政策に基づいて、住宅やビル系建築物における断熱性や遮熱性の向上が期待されます。当協会ではこの動きを確実なものとするべく、病院に設置された樹脂窓を使った断熱性能実証実験を行います。また開口部の遮熱性を高めるために、モデルユニットハウスを用いて開口部廻り建材の遮熱性能実証実験を行ない、メリットを広くアピールしていきます。また、本年7月末をめどに、樹脂窓の耐候性評価方法のJIS化原案を作成してまいります。

また、広報活動の大きな柱として、昨年は「新しい時代を Create する PVC 製品」をテーマとして PVC Award 2019 を開催しました。2017 年まで開催してきた PVC Design Award では塩ビの認知度向上に主眼を置いてきたのに対して、PVC Award 2019 では社会にソリューションを提供する製品、商品に焦点を置き、既に市販されている、あるいは市販化が予定されている作品を中心に募集しました。おかげさまで従来にない分野も含め応募総数 115 点と、数多くの応募をいただき、つい先ほど受賞作品を表彰させて頂いたところです。本年はこのような優れた塩ビ製品を積極的に紹介していきたいと考えております。この場をお借りし、皆さまのご協力に感謝いたしますとともに、引続き今後の本事業へのご協力をお願い申し上げます。

このように、本年も、塩ビ樹脂がマテリアルリサイクル性に優れるとともに、環境問題の解決など社会へのソリューションの提供に大いに貢献し得る素材であることを広く知って頂く活動を積極的に進めて参る所存ですので、引続き関係各位のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、塩ビ事業に携わられておられる各社の益々のご隆盛と、本日ご臨席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

(1月10日(金)開催のVEC賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

皆様、明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしく弊会へのご指導のほどお願い申し上げます。

昨年は、平成から令和へと元号が変わり、新しい時代を迎えたわけですが、国内では大雨・台風などによる大規模災害の頻発や10月の消費税増税、国際的には先行きの見えないまま激化する米中経済摩擦、停滞する英国の欧州連合離脱問題、悪化を続ける日韓関係など、様々な不透明要因が絡み合う一年でもありました。内閣府による我が国景気の基調判断も、昨年11月時点で2か月連続の「悪化」となりました。

そんな中、塩ビ業界自身は、旺盛なアジアのインフラ需要に支えられた堅調な輸出が内需の停滞を補い、なんとか年末まで好調さを維持できた1年だったかと存じます。本年も、東京オリンピックや政府経済対策、アジアのインフラ需要の持続、そして米中・英欧・日韓など様々な国際関係の好転などにより、安定した経済成長を見込めるような環境の到来を期待するところです。

上記のような景気要因に加えて、プラスチック業界にとっては、「海洋プラスチック問題」「マイクロプラスチック問題」が構造的課題として大きく立ちはだかっています。この問題については、安倍総理自ら「プラスチックは有用であり、敵視したり、その利用者を排斥したりすべきではありません。必要なのは、ごみの適切な管理です」と発言されたように、使用規制一辺倒ではなく、まずはプラスチック廃棄物の適切な回収・流出防止を中心に様々な取り組みを進めることが大切です。こうした考え方を背景に、昨年6月、我が国はG20会合を主催し、「2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロとする」ことを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の合意を導きました。塩ビ業界としても、プラスチック業界内の連携はもちろん、消費者・自治体・関連業界との協力や国際連携に配慮しながら、このビジョンの実現に邁進していく所存です。

このため、VECは、化学業界5団体を事務局として設置されている海洋プラスチック問題対応協議会（JaiME）共同事務局への参加を引き続き積極的に進めてまいります。

また、VECは、塩ビの主要需要領域におけるリサイクルシステムの構築維持に引き続き努めてまいります。まずは塩ビ建材、なかんずく最近需要が堅調な樹脂窓について、一般社団法人日本サッシ協会及び樹脂サッシ工業会とともに、建材・住宅業界、産廃・中間処理業界、関係省庁、自治体の方々とも連携しつつ、リサイクルシステムを構築するための検討を進めてまいります。

もともと塩ビ製品は、「海洋プラスチック問題」の主たる対象となる「使い捨て包装材料」として使われることは極めて限定的であり、むしろ主として建材、インフラ関連で長年にわたって利用されております。省資源であり、耐久性・加工性・着色性などにも優れ、マテリアルリサイクル性能にも優れています。

VECとしては、まずはこうした塩ビ製品の特長を発信して、潜在性をさらに開花させてまいりたいと存じます。昨年12月18日にはPVC Award 2019の受賞作品が決まったところですが、環境・省エネ型商品や健康安全商品など、国連の定める「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成にも役立つような作品（例えばロールスクリーンや樹脂サッシなどの断熱・省エネ商品）が受賞作品として選ばれましたが、こうした点の積極的な外部発信に努めてまいりたいと存じます。

一方、「海洋プラスチック問題」「マイクロプラスチック問題」に関連し、様々な規制や自主的対応が進められています。例えば廃棄物の越境移動に関し、バーゼル条約改正や、中国や途上国の規制厳格化が進んでいますが、この状況が塩ビを含めたプラスチック再生品の国内リサイクルに大きな影響を与えることは明らかです。他方、サーキュラー・エコノミーの実現を目指す英エレン・マッカーサー財団は、塩ビを含めたいくつかの少量素材を包装材料から外そうと提言しており、いくつかのグローバル企業がこうした流れに追随し始めています。塩ビ業界としては、塩ビそのものはリサイクル性能にも優れた有用な素材であることをしっかりと発信しながら、他のプラスチックとの分別分離の在り方などについても検討を進めていく必要があります。VECとしては、国内関係業界やJaIME、さらには国際的な塩ビ業界のネットワークとも適宜連携しながら、「One Team」となって適切な情報を発信し、こうした問題に対応してまいる所存です。

情報発信にあたっては、学界、関係官庁、関係団体、関係企業の皆様と協力しつつ、客観的かつ科学的なファクトに基づいて塩ビ製品の良さをアピールしていきたいと考えております。例えば、樹脂窓については、省エネや快適性、耐久性評価などに関するファクトを積み重ねてまいりました。温暖化対策に貢献しつつ生活の質を向上させる可能性と、そして製品としての信頼性をわかりやすく伝えることができると考えております。

このように、VECは、今後も塩ビ製品の潜在性をさらに大きく発揮させるべく、微力ながら尽くしてまいる所存ですので、どうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のますますのご発展をお祈りいたします。

■編集後記

昨年開催したPVC Award 2019「テーマ：新しい時代を Create する PVC 製品」の応募作品は115点に上りました。その中から選ばれた受賞作品（12点、webサイト参照：<http://www.pvc-award.com/>）を含む約50点の展示会を以下のとおり開催します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。（PVC Award 2019 事務局）

期間：2020年1月17日（金）～26日（日）

時間：11時～20時

会場：GOOD DESIGN Marunouchi

東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル1F

■関連リンク

●[メールマガジンバックナンバー](#)

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1
■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783
■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
